

研究主題「学習活動を活性化させる個に応じた言葉かけの工夫」

東京都教職員研修センター 研修部 専門研修課
調布市立第一小学校 教諭 酒井 美香

研究の背景とねらい

「いいね。がんばろうね。」「自分で考えてごらん。」児童の主体性を伸ばそうとして、教師は児童のためにこのような言葉かけをすることがある。児童のためにかけるこのような言葉かけは、児童の立場に立った場合、本当に主体性を伸ばすことにつながっているのでしょうか。自分の活動内容に不安をもっている児童に対し、その状況を見極めずにこのような言葉かけをしてしまうと、その児童は、先の見通しがもてなくなり、活動が停滞してしまうこともある。

総合的な学習の時間では、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることや、主体的、創造的に取り組む態度を育てることなどをねらいとしている。この主体的に取り組む態度は、各教科での学ぶ態度につながるとともに、各教科で学んだことが総合的な学習の時間での学びに生かされることによって、確かな学力として定着することが期待される。このことは、平成15年12月学習指導要領一部改訂において、各教科等との関連についての項目が追加され、各学校で取り組みが始まっている。

児童にとって意欲的に取り組めるようにカリキュラムを工夫したとしても、児童は、「何をすればいいの。」「説明してもらってないよ。」「これ、やるの。」と指示を待ち、自ら工夫して解決しようとしないう様子や、自ら判断しようとしないう様子が見受けられることもある。このようなとき、教師は児童が主体的に活動を開始できるように様々な支援を行うことになるが、その一つに「言葉かけ」がある。そこで、この言葉かけを糸口に、研究主題に迫ることにした。学習活動を始められないでいたり、滞ったりしている児童に対する教師の言葉かけの事例を整理し、児童が主体的に活動する力を伸ばすために有効な教師の言葉かけを明らかにすることを研究のねらいとした。

研究の方法

1 基礎研究

児童が考えていることや感じていることを見取るための児童理解の方法と、児童が主体的に活動するための教師の具体的ななかかわり方について、先行研究や様々な文献等で研究を進めた。また、自己の実践等から言葉かけを分類し、実際の場面での有効な活用方法を研究した。

2 開発研究

小学校の総合的な学習の時間の16時間分の授業観察から、学習活動をなかなか始められない児童と、学習活動が滞っている児童を観察対象として、教師と児童の約1900の言葉のやりとりを整理した。また、教師からの聞き取りと観察対象児童に対する行動観察や聞き取りを行い、言葉かけと対応させて分析した。これにより、有効な言葉かけの流れを整理し、検索しやすい「言葉かけ事例集」を作成した。

3 検証授業

開発研究で整理した言葉かけの流れから、分類された各言葉かけの有効性を検証した。また、検証授業を通して事例をさらに増やすとともに、その活用法について検討した。

研究の成果と考察

1 基礎研究より

(1) 「成り込み」「巻き込み」について

鯨岡峻『関係発達論の構築』(平成11年)

成り込み 「養育者が子どもの感情の側に入り込み、子どもに合わせる状態」
「成り込むことにより子どもの意図や気持ちの動きのような心的状況を把握することができる。」

巻き込み 「養育者が子どもの感情を大人の願う方向に向かって調整すること」

養育者が「成り込み」「巻き込み」をするときに有効とされる言葉かけを、教師が行う児童への言葉かけに生かすことができると考えた。児童に主体的な活動を促す教師の言葉かけについて、授業観察を通して収集し、「成り込み」「巻き込み」の視点で整理する。それにより、「教師の言葉かけの流れ」を作成できることが分かった。

(2) 児童と教師のかかわりについて

参考となったコーチングスキルについて

- ・ コーチングを行う最初の段階からコーチはプレーヤーに内在する力を信じること。
- ・ コーチとプレーヤーが自己表現し合える関係にあること。

困難に直面しているプレーヤーに対するコーチのかかわり

- ・ プレーヤーがどの段階にあるかを見極めるための具体的な項目を示す。
- ・ 各段階におけるプレーヤーへのかかわり方の具体例を示す。

上記のことから、教師が児童に効果的な言葉かけをするには、原因を見極めるときに参考となる具体的な項目を整理しておくこと、児童の状況に合った言葉かけの具体例を整理しておく必要があることが分かった。

2 学習活動を活性化させる教師の言葉かけ

(1) 3つの段階「成り込み」「巻き込み」「送り込み」についての定義

授業観察の逐語記録から様々な事例を収集し、整理した。

〔課題のあった事例〕

- ・ 学習活動を始められない等の原因を見極めないで言葉かけを行った事例
- ・ 児童の変容を見取らない等、言葉かけの効果を見ていない事例 等

〔効果のあった事例〕

- ・ 学習活動を始められない等の原因や児童の変容を見極めて言葉かけを行った事例
- ・ 児童が自分自身の成長を振り返ることで、自分の成長を自覚し、学習活動に対して意欲を高めることができた事例 等

基礎研究を基に3つの段階「成り込み」「巻き込み」「送り込み」に分類し、それぞれの段階について次のように定義した。

成り込み	学習が始められないなどの原因を見極め、それを確かめるために、教師が児童の置かれている状況に成りきって言葉かけを行う段階
巻き込み	教師が児童を望ましい方向に促すために言葉かけを行う段階
送り込み	教師が児童を振り返りの場に送り込み、児童が自分の成長を自覚するために言葉かけを行う段階

(2) 各段階における言葉かけの有効性について

前項の定義に従って教師の言葉かけを整理し、授業記録を分析した。各段階では、それぞれ有効な言葉かけがあり、教師が児童一人一人の状況に応じて慎重に判断して使い分けることが大切である。言葉かけを行う前に、児童が学習活動を始められない原因や学習活動が滞っている原因を見極めることがとても重要である。そこで、原因を的確に見極めるための手がかりとなるものを作成した。授業観察の分析から具体的な原因を整理し、大きな枠組みで以下に示したように整理した。こうしてできた3つの枠組みを手がかりにすることで、具体的な原因の見極めがしやすくなった。

原因の見極め

- ・ 学習活動に対して取り組む方法が分からない
- ・ 学習活動をどの方向に進めていったらよいか分からない
- ・ 自分の気持ちが集中できない

「成り込み」の有効性

授業観察の分析から、次の2つの言葉かけに分類した。「理解する言葉かけ」は、教師が児童の活動内容を理解していることを児童に伝えることである。また、「共感する言葉かけ」は、教師が児童の心情に共感していることを児童に伝えることである。

「成り込み」の段階で、教師に自分の活動を理解してもらえたことや自分の気持ちに共感してもらえたことで安心感をもった児童は、自分の現状を自分で受け入れることができた。それにより、教師と児童のかかわりが深まったり、自分の考えを表現できるようになったりするなど、有効性が検証された。

「巻き込み」の有効性

前段階の「成り込み」により、教師は児童が学習活動を始められないでいる、または学習活動が滞っている原因をつかんでいるので、支援の目的が明確になる。この「巻き込み」の段階での言葉かけは、右に示す4つの言葉かけに分類した。

検証授業では、教師が前段階の児童の状況に成り込んだ状態のまま、「巻き込み」の段階での言葉かけをすることで、学習活動を始めるなどの効果を検証することができた。

「送り込み」の有効性

「送り込み」の段階においては、右に示す2つの言葉かけに分類した。「振り返らせる言葉かけ」によって、

児童が自分の活動を振り返ることができた。さらに、児童が表現したことを受けて、教師が「言語化する言葉かけ」をすることで、児童は自分の成長を自覚し、自信をもって活動を進めていく姿を見せるなど、その有効性が検証できた。このことから、この段階では、2つの言葉かけを組み合わせることが効果的であることが分かった。

「成り込み」の段階での言葉かけ

- ・ 理解する言葉かけ
「 を作るようしているのね。」
「何て言うか考えているんだね。」
- ・ 共感する言葉かけ
「どうしようか…。迷っちゃうね。」
「困ったね…。」

「巻き込み」の段階での言葉かけ

- ・ 言ってきかせる言葉かけ
「ここを読んでごらん。」
「これを書くといいんじゃない。」
- ・ やってみせる言葉かけ
「こうするんだね。」
「 さんの発表だね。
(友達の発表を聞く姿勢をやってみせる。)」
- ・ やらせてみる言葉かけ
「自分の考えを話していいよ。」
「なるほど。 から始めるんだね。」
- ・ 褒める・励ます言葉かけ
「これ、よくできているね。」
「分かりやすく話せたね。」

「送り込み」の段階での言葉かけ

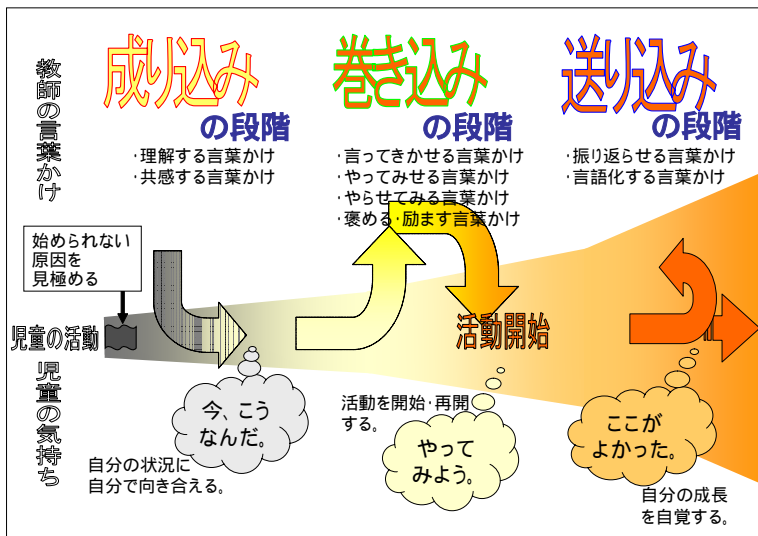
- ・ 振り返らせる言葉かけ
「どんな工夫したんだっけ。」
「どうやったらできたの？」
- ・ 言語化する言葉かけ
「 するとうまくいくんだね。」

(3) 「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」について

各言葉かけの有効性について検証授業を通して実証できたことや、授業観察で収集した事例を3つの段階に分類して実際の場面にあてはめて言葉かけの流れについて検討を重ねたことにより、その教師の言葉かけの流れについて「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」としてまとめた。

まず、教師は、学習活動を始められないでいる児童や学習活動が滞っている児童に対してその原因を見極め、それを確かめるための「成り込み」の言葉かけを行う。「成り込み」の言葉かけによって自分の状況に安心して向き合えるようになった児童に対して、教師は明確な目的をもった「巻き込み」の言葉かけを行う。「巻き込み」の言葉かけで学習活動を始めることができる。その後、学習活動を振り返るための「送り込み」の言葉かけにより、自分自身の成長を自覚することを目指す。この一連の流れを教師の言葉かけによる児童の気持ちの変容、児童の活動の広がりを図1に示した。

図1 「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」



3 言葉かけの実際

(1) 言葉かけ事例集

「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」に基づいて、授業観察や検証授業の逐語記録から教師の言葉かけを事例集として整理した。

教師の言葉だけでなく、児童とのやりとりを会話形式で表したり、具体的な場面や背景について分かりやすく表すためにさし絵を利用したりした。また、児童が学習活動を始められない原因や学習活動が滞っている原因について取り出し、その原因と関連付けた。さらに、具体的な言葉かけの事例を「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」の各段階ごとに整理するなど、利用しやすいように工夫した。

(2) 授業における活用の工夫

実際の学習指導の場において、課題設定の場面や探究活動が滞った場面などで事前に児童の姿を想定してその児童とそのときの状況に合った言葉かけを準備したり、事後に児童への言葉かけの効果を確認し、その後の支援に生かしやすいように検索のシステムを開発したりした。「学習活動を活性化させる教師の言葉かけの流れ」として示した各段階は、各言葉かけの事例を参考にできるようにしたこと、複数の事例が見られるようにしたこと、また、効果のあった事例だけでなく、課題の残った事例も見ることができるようにしたことなど、工夫をして作成した。

今後の課題

授業実践を通して、さらに日常的に言葉かけの事例を収集し、事例集等の充実を図り、原因の見極めの方法等について検討する。